

横須賀港

PORT OF YOKOSUKA



海とともに発展した都市

地勢

横須賀港は、神奈川県中央部より南東へ突き出した三浦半島の東岸、北緯 35 度 12 分～ 35 度 19 分、東経 139 度 38 分～ 139 度 45 分の東京湾口部にあり、東側は東京湾を 6 海里 (11.1 km) 隔てて房総半島と相対し、北側は横浜を経て東京に陸路 55 km、海路 25 海里 (46.3 km) に位置しています。

海岸線は多数の入江を形成し、水際付近まで深い水深となっています。背後は高さ 50～100m 前後の起伏ある丘陵に囲まれ、開口部が狭隘であることから、天然の良港となっています。港内は穏やかで湾奥は台風時であっても安全な泊地条件に恵まれ、船舶の出入りに適しています。相模湾に面した西側は漁港区域となっており漁港が整備されています。

沿革

慶応元年 (1865 年)、徳川幕府の勘定奉行であった小栗上野介忠順とフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニーが、横須賀村に製鉄所 (造船所) の建設を開始したのが横須賀港の起源です。その後、明治 17 年 (1884 年) に横須賀鎮守府が設置されて以来、軍港として発展を遂げてきました。

終戦後、横須賀港は、昭和 23 年 (1948 年) 1 月 1 日に貿易港の指定を受け、昭和 25 年 (1950 年) には「旧軍港市転換法」の施行によって、横須賀市は「平和産業港湾都市」として新たな歩みをはじめ、昭和 26 年 (1951 年) 1 月 19 日に港湾法の規定により横須賀港が「重要港湾」に、また同年 9 月 22 日には「準特定重要港湾」(国内産業開発上特に重要な港湾) に指定され、その後、昭和 28 年 (1953 年) 4 月 1 日に横須賀市が港湾管理者となりました。

横須賀港は、昭和 42 年 (1967 年) 9 月に策定した横須賀港港湾計画に基づき整備が進められ、その後変更、改訂を重ねたのち、令和 6 年 (2024 年) 6 月に改訂を行い、現在に至っています。北の追浜地区から南の野比地区まで 13 の地区からなり、各地区特色をもった港湾が形成されています。

市勢

市域面積：100.80 km² (東西約 15.5 km、南北約 15.8 km)
 国土地理院公表値 (令和 7 年 10 月 1 日現在)
 人口：365,561 人 166,145 世帯
 推計人口 (令和 8 年 2 月 1 日現在)

産業：経済センサス活動調査 (令和 3 年 6 月 1 日現在)
 事業所数 11,677 事業所 従業者数 118,198 人
 商業 2,160 事業所 従業者数 19,864 人
 年間商品販売額 5,021 億 6,835 万円
 工業 203 事業所 従業者数 14,389 人
 製造品出荷額等 5,102 億 3,258 万円
 農業 総農家数 571 戸 経営耕地総面積 38,073a
 農林業センサス (令和 2 年 2 月 1 日現在)
 漁業 経営形態 252 経営体 漁船隻数 511 隻
 漁業センサス (令和 5 年 11 月 1 日現在)

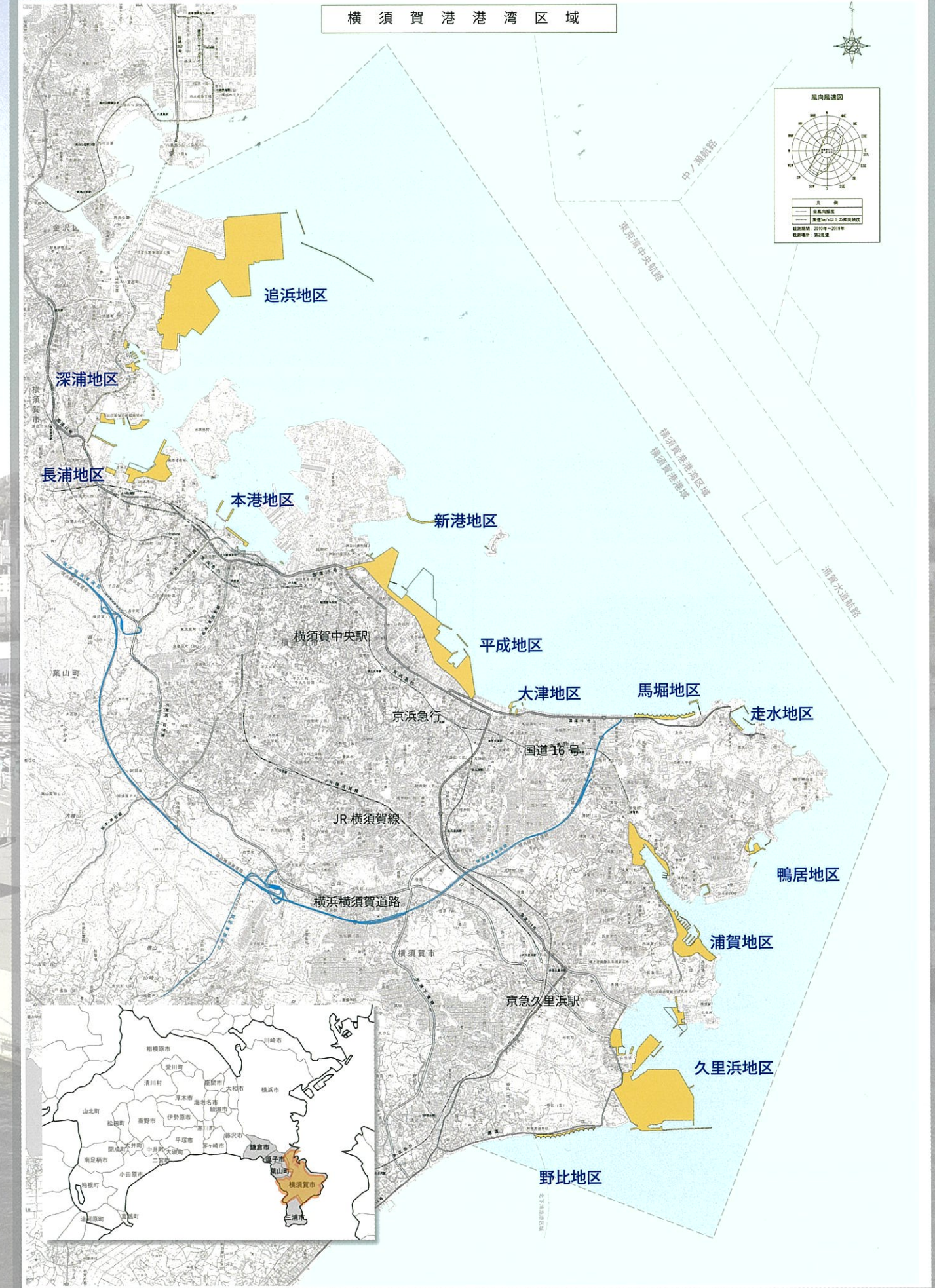
観光入込客数 延べ総数 1,031 万 9,452 人 (令和 5 年)
 1 位 三笠公園 210 万 3,500 人
 2 位 ヴェルニー公園 159 万 2,800 人
 3 位 観音崎公園 118 万 8,175 人

総予算額 3,410 億 7,800 万円 (令和 7 年度当初予算)
 一般会計 1,795 億 9,000 万円
 特別会計 1,110 億 6,100 万円
 企業会計 504 億 2,700 万円



アクセス

京急線利用	横須賀中央
横須賀中央	品川
品川	羽田空港
羽田空港	約 25 分
	約 45 分
	約 50 分
首都高速道路・横浜横須賀道路利用	横須賀中央
横須賀中央	横浜駅西口 IC
横浜駅西口 IC	銀座出入口 (東京)
銀座出入口 (東京)	約 30 分
	約 50 分



首都圏を支える港



◎ 横須賀港の利便性

横須賀港は、海路と陸路での輸送時間の短さなど、大きな優位性を持っています。九州～首都圏を結ぶ長距離フェリーもこの特性を活かすとともに、速い航海速度で短いリードタイムを必要とするニーズに応えています。

◎ 横須賀港の特徴

横須賀港の強みは、都心からの距離が直線で40km程度と近いことです。首都圏の大消費地を控えるとともに、高速道路ネットワークを利用し、関東圏以遠からの貨物の集配荷も行われています。首都圏にあることから、特に短いリードタイムでの輸送が求められる消費者向けの貨物を受け入れるには最適な港となっています。

横須賀港はコンテナを取り扱うための港湾施設がないことから、利用する船舶は、フェリーやRORO船となります。

◎ 海上輸送

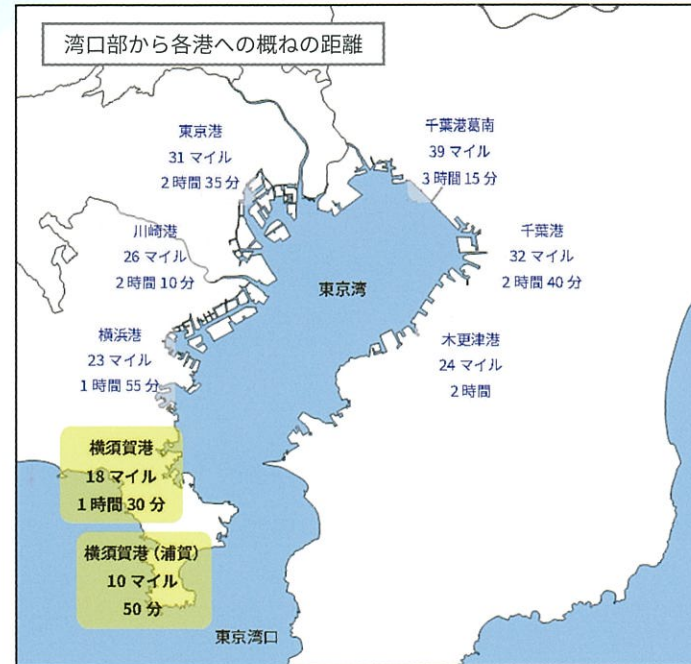
横須賀港は東京湾口部にあり、入口（剣崎）から横須賀港まで18マイル（約28.9km）、約1時間30分で、浦賀水道航路の速度制限（12ノット）影響を受けにくく、湾奥部に位置する他港への入港に比べ、リードタイムを大きく短縮できます。また入港待ちやゲート待機等がないことも大きなメリットです。

◎ 道路ネットワーク

現在事業中の横浜環状南線が釜利谷JCTで横浜横須賀道路とつながることで、圏央道とつながり、都心部を通らずに東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道、東北自動車道などとアクセスが可能となり、円滑な貨物輸送が可能になります。

また、首都圏の湾岸部を通る国道357号も横須賀市北部の追浜地区への延伸を目指しています。

2路線の供用開始により、大幅なアクセス向上が見込めます。

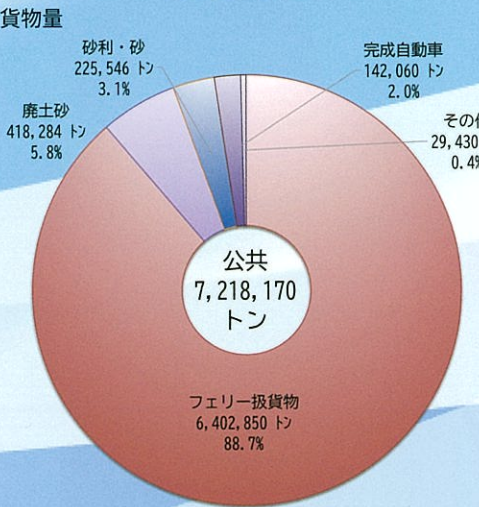
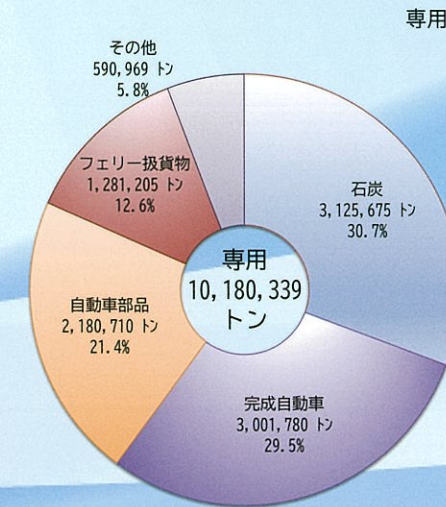
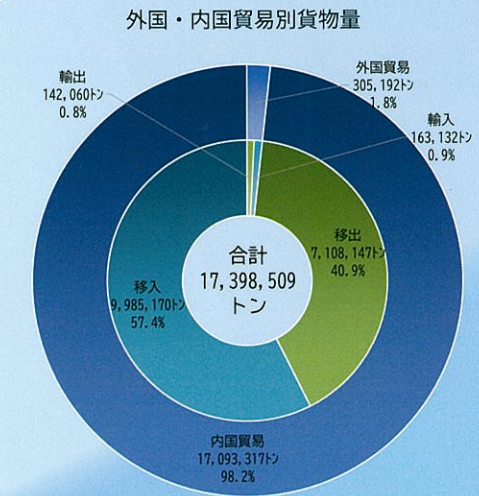
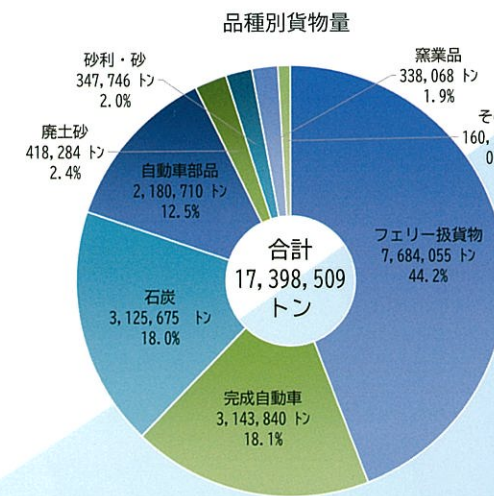
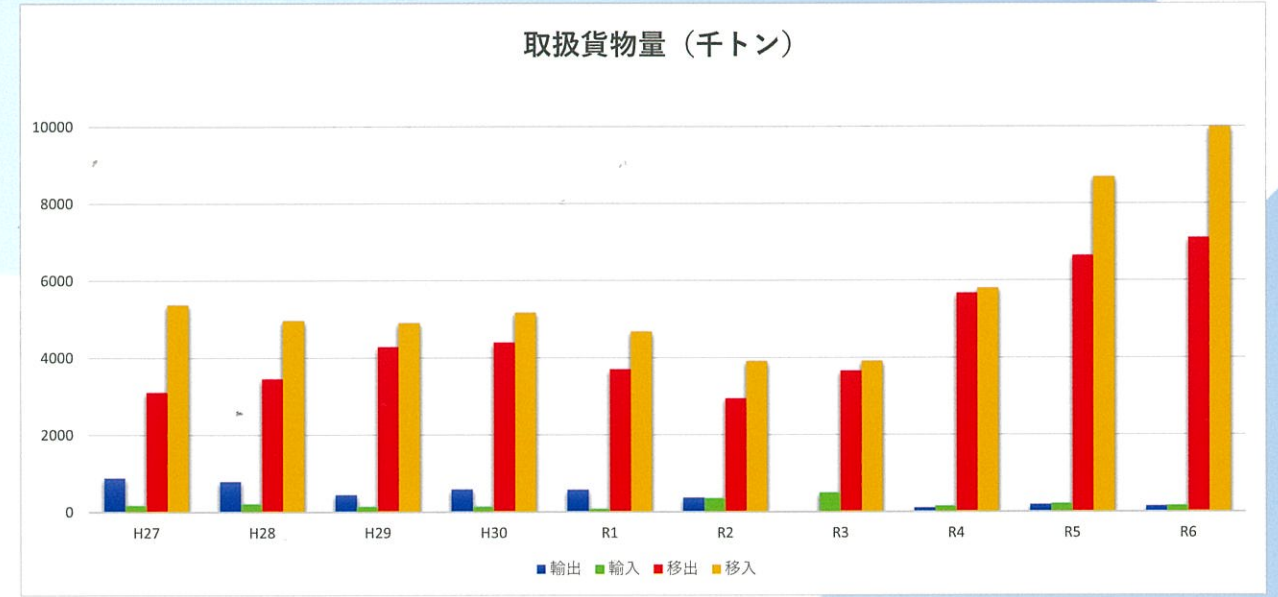


横須賀港（横須賀IC）からの主なアクセス

目的地	距離	所要時間
海老名（東名高速道路）	50km	40分
圏央道利用 八王子（中央自動車道）	86km	1時間5分
鶴ヶ島（関越自動車道）	118km	1時間30分
現在事業中の「横浜環状南線」の接続によりアクセスは飛躍的に向上します。		
宇都宮（東北自動車道経由）	188km	2時間30分
本牧ふ頭	42km	40分
空港中央（羽田空港）	48km	40分
豊洲	62km	50分

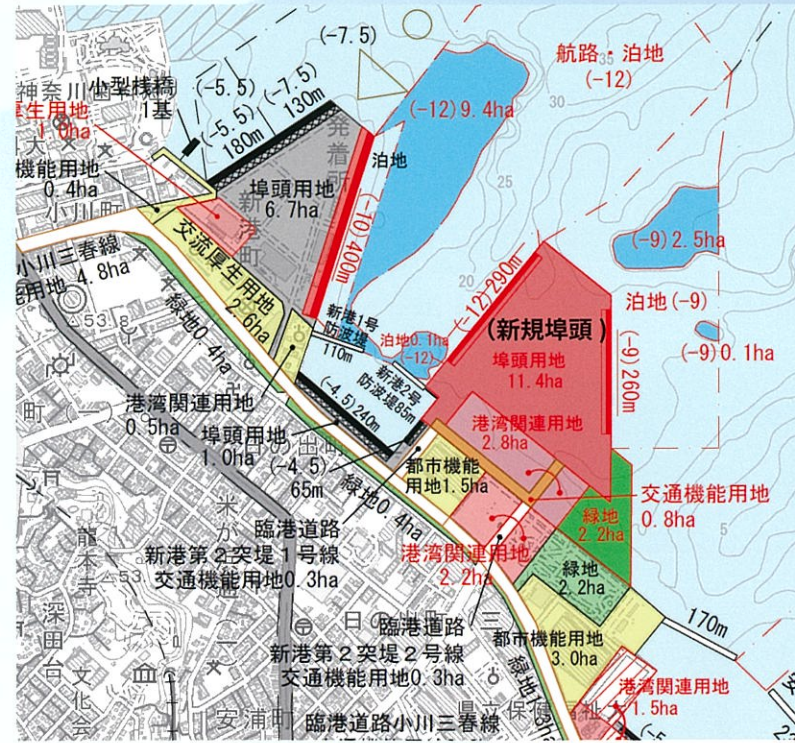
令和6年（2024年）港湾統計

- 令和6年（2024年）の横須賀港の港湾貨物取扱量は1,739万8千トンで、令和3年（2021年）7月の長距離フェリー就航や令和5年（2023年）の発電所の運転開始以降、移入量・移出量が増加しています。
- 主に取扱われる貨物は、フェリー扱貨物、完成自動車、石炭、自動車部品となっています。
- 内国貿易の構成比は98.2%で外国貿易1.8%を大きく上回っています。
- 取扱貨物の専用ふ頭、公共ふ頭別の集計は、専用ふ頭が全体の58.5%を占め、取扱貨物は石炭、完成自動車、自動車部品となっています。公共ふ頭は41.5%を占め、このうち8割以上がフェリー扱貨物となっています。



各地区の紹介

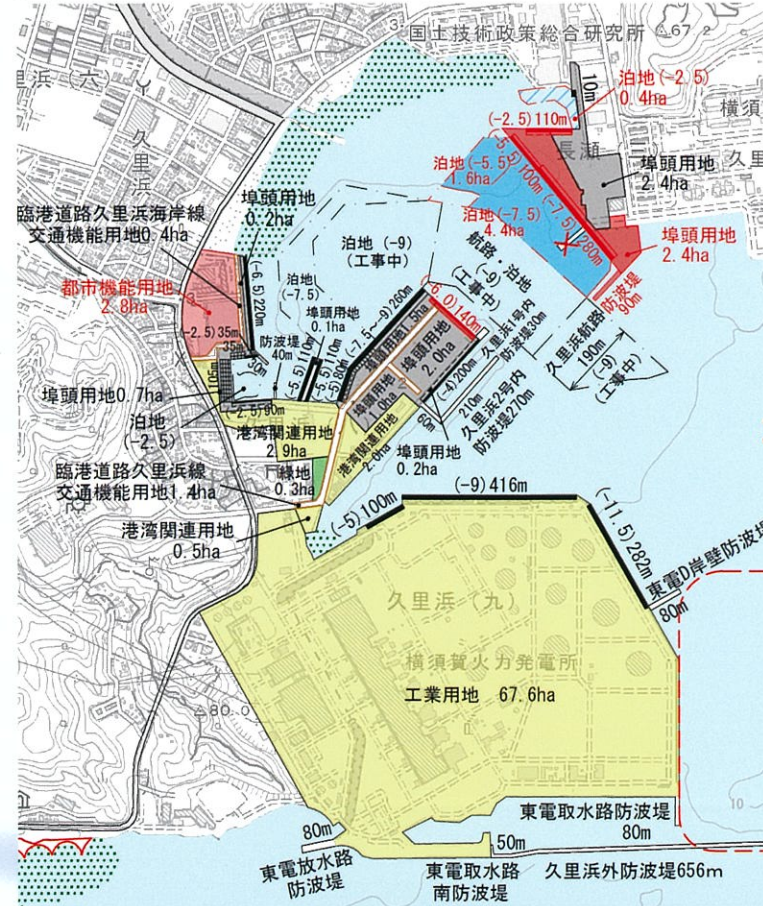
新港地区



SOLAS 条約に基づいた港湾施設保安計画に対応する国際ふ頭があり、完成自動車の輸出や冷凍マグロなど水産品の輸入が行われています。2021年7月には北九州港（福岡県）との間に長距離フェリーが就航し、首都圏～九州間の物流ルートや旅客にも利用されています。手狭な埠頭を外貿・内貿で使用するため、ふ頭内に共用部分を設け、時間によりエリアを変更するなど効率的な運用を行っています。

中心市街地に隣接し、無人島「猿島」、世界三大記念艦の一つである「三笠」が保存されている「三笠公園」（2027年4月リニューアルオープン）、横須賀の新鮮な食材が集まる「よこすかポートマーケット」など観光拠点があります。また隣接には、新規航路や更なる集荷を目指すために新たなふ頭を整備します。

久里浜地区



国土技術政策総合研究所・港湾空港技術研究所

東京湾の湾口部に位置し、「耐震強化岸壁」が整備されています。ふ頭内は SOLAS 条約に基づく国際貿易に対応し、冷凍マグロなどの水産品の輸入が行われています。

浜金谷港（千葉県）との間にフェリーが就航しており、隣には JERA の発電所があります。

2018年には、横須賀市の新しい観光拠点・地域振興の活動交流拠点として「みなとオアシス『ペリー久里浜』」が認定されました。

また、東京湾内の安全な船舶航行のためのタグポート基地や国土交通省などの研究機関があります。

追浜地区



主に完成自動車や自動車部品が取り扱われています。背後の工業用地には、大規模な企業が集積し、専用ふ頭をもつ工場や研究所では港湾活動が行われています。



平成地区



大規模地震に備える「耐震強化岸壁」が整備されています。周辺にはマンションのほか、「うみかぜ公園」や「海辺つり公園」といった港湾緑地や商業施設が立地しています。



浦賀地区



江戸時代から中継貿易港として栄えた地区です。日本で唯一現存しているレンガ造りのドライドックがあり、浦賀東西を結ぶ渡船「愛宕丸（あたごまる）」が就航しています。「第二の開国」をテーマにドック周辺を文化・交流拠点として整備が予定されています。近接する浦賀駅とを結ぶペDESTリアンデッキ等の整備や、駅前交通広場の再編により、利便性・回遊性を高めます。宿泊・商業・交流機能等の導入によりにぎわいを創出するとともに、浦賀の「海」と「歴史」の魅力を生かした新たなまちづくりを目指します。



深浦地区
2007年に放置艇対策のためポートパークを整備しました。造船所や工場が立地しています。



長浦地区
横須賀港の中で戦後最初に整備がすすめられた地区で、捕鯨船の基地として栄えました。主に官公庁や海上自衛隊、米海軍が利用しています。



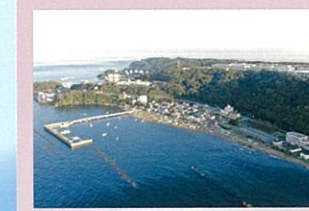
本港地区
1865年にこの地区で横須賀製鉄所の建設が始まり、横須賀港の起源となっています。現在は主に海上自衛隊や米海軍が利用しています。



大津地区
漁港があり、背後には住宅地や商業施設が立地しています。台風の影響などで護岸周辺が浸水してしまうため、2023年に高潮対策護岸を整備しました。



馬堀地区
1995年・1996年の台風で、周辺一帯が浸水しました。これを防ぐため、国の直轄事業として、1998年から2005年にかけて、高潮対策護岸を整備しました。



走水地区
自然の海浜や漁港があり、「横須賀美術館」では年間を通じて様々な展示が行われ、アートを楽しむことができます。



鴨居地区
自然豊かな観音崎公園があり、公園内にはフランソワ・レオンス・ヴェルニーが設計した日本発の洋式灯台である「観音崎灯台」があります。

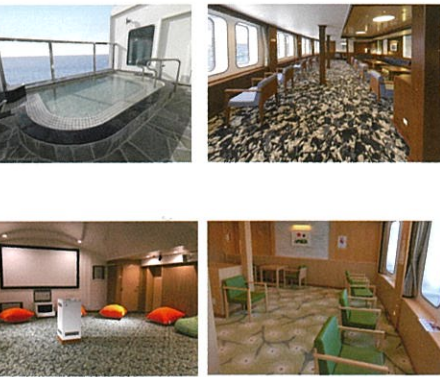


野比地区
海岸線沿いに砂浜が広がっています。海岸侵食による背後地への被害を防ぐため、離岸堤などの整備を進めています。

港を利用する主な船舶（貨物）

長距離フェリー（東京九州フェリー）

利用施設 新港1号・2号岸壁 延長400m(水深-10.0m)



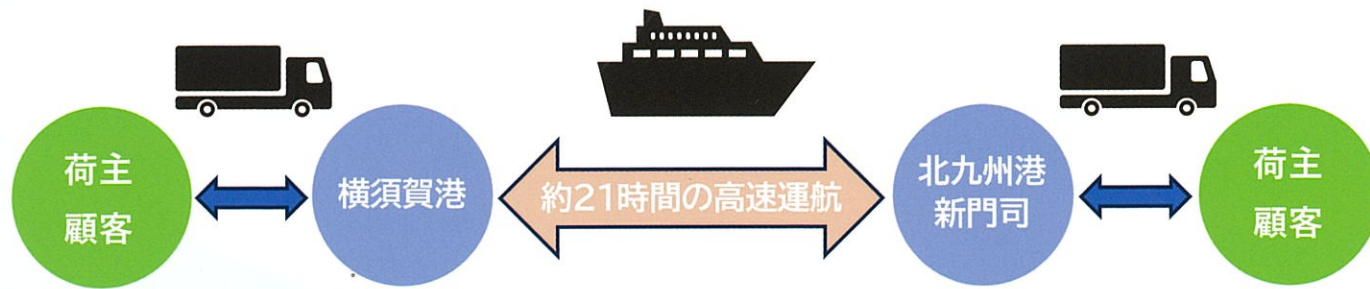
〈運航ダイヤ・スケジュール〉

- ・週6便（日曜・祝日運休）
- ・横須賀 23:45 発 ⇒ 北九州 翌日 21:00 着
- ・北九州 23:55 発 ⇒ 横須賀 翌日 20:45 着

〈船舶概要〉

- ・船名 はまゆう／それいゆ（2隻体制）
- ・全長 222.5m
- ・総トン数 15,515トン
- ・航海速度 28.3ノット
- ・旅客定員 268名

〈フェリー利用のメリット〉



- ▶ リードタイム … 宅配便の九州地区への3日後配達が可能
- ▶ ドライバー不足対策 … シャーシによる無人航送
有人トラックはフェリー特例（改善基準告示）による乗船時間の休息
- ▶ CO₂ 排出量を大幅に削減 … エネルギー消費（1トン1km）はトラックの約1/5



PCC（自動車専用船）

利用施設 新港1号・2号岸壁 延長400m(水深-10.0m)



新港地区では、完成自動車の輸出が行われており、横須賀港を出港したPCCは他港に寄港しながら、主に北米に向かいます。



マグロ船

利用施設 新港2号岸壁 延長200m(水深-10.0m)
新港3号岸壁 延長130m(水深-7.5m)
久里浜1号岸壁 延長260m(水深-7.5~9.0m)

横須賀港は冷凍マグロの輸入基地となっています。世界各地で漁獲されたマグロが、運搬船によって運ばれてきます。また、養殖マグロを加工から凍結まで行う加工凍結船での輸入も行われています。



専用岸壁

追浜地区

日産自動車㈱のほか住友重機械工業㈱が、貨物を取り扱う専用の港湾施設を所有しています。
日産自動車㈱の専用埠頭では、完成自動車のほか、自動車関連部品の移出入が行われ、貨物取扱量は横須賀港全体の約3割になります。

利用施設 日産1・2号岸壁 延長435m(水深-12.0m)
日産3・4号岸壁 延長260m(水深-7.5~-10.0m)
管理者 日産自動車㈱



久里浜地区

㈱JERAの貨物を取り扱う専用の港湾施設になります。発電所の燃料となる石炭の移入のほか、焼却後の石炭灰が輸移出入されています。貨物取扱量は横須賀港全体の約2割になります。

利用施設 JERA C岸壁 延長416m(水深-9.0m)
JERA D岸壁 延長282m(水深-11.5m)
管理者 JERA パワー横須賀合同会社



未来へつながる港湾整備

東京湾の湾口部にあり、浦賀水道航路の速度規制の影響を受けにくい港湾となっています。東京湾内の他の港湾と比べ、リードタイムも短く、背後圏の道路ネットワークの整備も進み、将来に向けポテンシャルの高いものとなっています。

横須賀港の主要な公共ふ頭である新港ふ頭には、2021年7月に長距離フェリーが就航し、九州～首都圏で多くの貨物が取り扱われており、既存の自動車専用船の利用も含め、ふ頭の面積が不足している状況です。今後も、ドライバー不足や環境対応などフェリーをはじめとする船舶の利用が進むことが予想されます。

このような状況を解消し、横須賀港での貨物の取り扱いの増加させるため、令和6年(2024年)6月に横須賀港港湾計画を改訂し、新港ふ頭の隣接に新規の埋立とふ頭整備を位置づけ、事業を進めます。



※生成 AI 作成イメージ図



※整備予定図



概要

- 完成自動車などの外貨貨物を取り扱うための岸壁を整備します。
 - 12m岸壁1バース 延長290m
 - SOLAS 保安施設の整備
- フェリーやRORO船による内貨貨物のための岸壁を整備します。
 - 9m耐震岸壁1バース 延長260m
- ふ頭用地11ha(荷さばき施設用地及び保管施設用地)を整備します。
- 港湾緑地2haを整備します。
- 用地売却5haによる企業立地を進めます。



区分		工事スケジュール		
		第1期 概ね10年間程度	第2期 第1期の進捗を見ながら順次事業化	第3期
工事内容	第1期	湾内埋立 -12m岸壁		
	第2期	緑地護岸 -9m耐震強化岸壁 埋立		
	第3期	先端護岸埋立 既存緑地用途変更		

港の魅力を楽しむ

旅客定期航路



東京九州フェリー(株)
横須賀一新門司



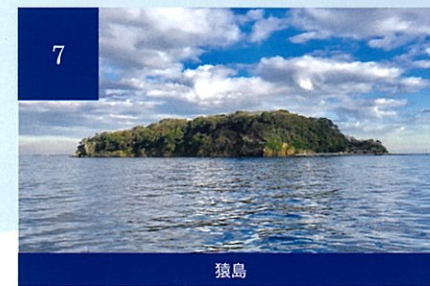
東京湾フェリー(株)
久里浜一浜金谷



(株)トライアングル
猿島航路

港周辺の見どころ

1 深浦ポートパーク	12 観音崎公園
2 ティボディエ邸(ヴェルニー公園)	13 観音崎灯台
3 YOKOSUKA軍港めぐり	14 燈明堂
4 記念艦三笠(三笠公園)	15 浦賀レンガドック
5 よこすかポートマーケット	16 西浦賀みなと緑地
6 うみかぜ公園	17 浦賀の渡し
7 猿島	18 千代ヶ崎砲台跡
8 海辺つり公園	19 ベリー記念碑
9 馬堀海岸(遊歩道)	20 第二海堡
10 走水水源公園	10,000mプロムナード
11 横須賀美術館	みなとオアシス"ベリー久里浜"



みなとオアシスは、海浜・旅客ターミナル・広場など、みなとの施設やスペースを活用して、地域振興活動が行われる交流拠点として、国土交通省港湾局で登録されるものです。横須賀港久里浜地区(久里浜港)は、フェリーターミナルをはじめとして、温浴施設や飲食施設、各種工場(直売所)等が立地しています。

安全と安心のために

大規模な災害のために

耐震強化岸壁

大規模災害時には緊急物資等の海上輸送の拠点として2か所の耐震強化岸壁が整備されています。

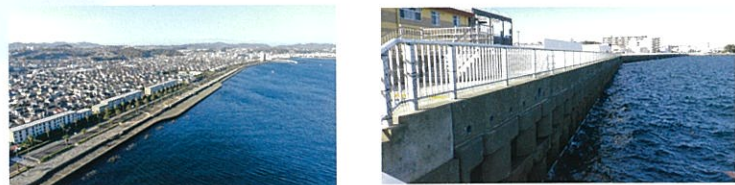
耐震強化岸壁 平成港 延長90m 水深(-5.5m) 平成元年度(1989年)整備
久里浜港 延長100m 水深(-7.5m) 平成15年度(2003年)整備



市民の日常生活を守るために

高潮対策護岸

馬堀 延長1,650m
国直轄工事 平成17年度(2005年)整備
大津 延長517m
令和5年度(2023年)整備



侵食対策事業

野比 離岸堤14基 大型突堤1基 突堤1基 人工リーフ2基 総延長5,000m
(漁港区域含む)



災害時のネットワーク確保のために

令和7年(2025年)12月16日に「命のみなとネットワーク」(国土交通省)の形成に向け関係機関とともに訓練を行いました。
この訓練は、災害により陸路が寸断された場合、海沿いの集落へ迅速・的確に物資を運搬する体制の構築を目的としています。

- ・耐震強化岸壁のある平成港、久里浜港から長井漁港(相模湾側の漁港)に向けた支援物資の輸送。
- ・長井漁港の岸壁の調査、着岸可否の確認、漁港からの陸揚げ、避難所への運搬。

1. 調査船着岸、調査員下船



2. 着岸可否判断のための岸壁調査

3. 物資輸送船着岸



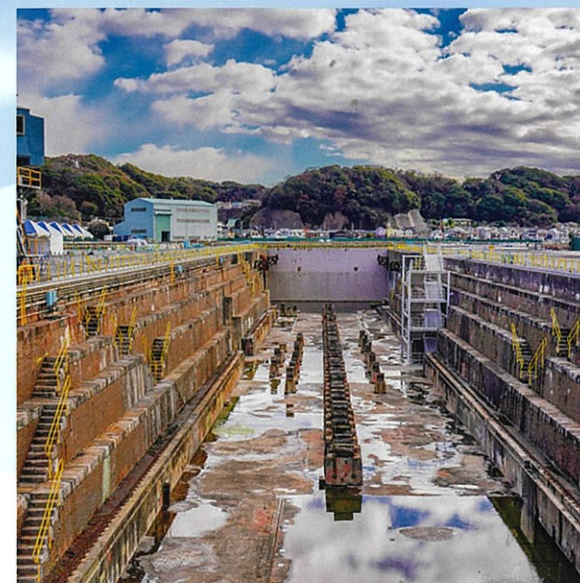
4. 物資輸送

(参加機関) 横須賀市、国土交通省関東地方整備局、国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人港湾空港技術研究所、横須賀海上保安部、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀市東部漁業協同組合、長井町漁業協同組合

未来につなげる

未来につなげるプライドとアイデンティティ

浦賀地区再開発「第2の開国」



豊かな自然と歴史資産を生かした「大矢部みどりの公園」



バスタ追浜 (追浜駅交通結節点整備事業)



こどもがつなげる海の環境

横須賀港には、普段立ち入りはできませんが昔の東京湾を思い起こさせる一画があります。地域の親子やボランティアの手によって、コアマモの植え付けや生物の観察会が行われています。子どもたちの手によって、海の環境が次世代に引き継がれていきます。



コアマモの植え付け体験の様子

海路でつなげる「まちとまち」

九州の方になじみ深い遊園地「香椎花園」が2021年に閉園しました。ここにあった「藤」が同じ時期に就航した東京九州フェリーを利用して横須賀のしょうぶ園に移されました。新しい海路が遠い地域の思い出をつないでいきます。



横須賀市港湾部

(港湾企画課 ポートセールス担当)

〒238-8550

神奈川県横須賀市小川町 11 番地

電話：046 (822) 8076

FAX：046 (826) 3210

E-mail：pg-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp

